

とをちのひらみこ
十市皇女、伊勢神宮に参る赴く時に、波多の
よこやま いはほ
横山の巖を見て、吹芟刀自の作る歌

二二番

かはのへ
河上の ゆつ岩群に 草生さず 常にもがもな
とこをとめ
常娘子にて

をみのおほきみ
麻続王、伊勢国の伊良虞の島に流さるる

時に、人の哀傷びて作る歌

二三番

うちそ
打麻を 麻続王 海人なれや 伊良虞の島の
たまもか
玉藻刈ります

をみのおほきみ
麻続王、これを聞き感傷びて和ふる歌

二四番

いのち
うつせみの 命を惜しみ 波に濡れ 伊良虞の
たまもか
島の 玉藻刈り食む